

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：21401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381267

研究課題名(和文)小中高大を貫く効果的な「仕事理解」の内容・方法の具体化に関する研究

研究課題名(英文)The study of job understanding through elementary school to college

研究代表者

渡部 昌平 (WATANABE, Shohei)

秋田県立大学・公私立大学の部局等・准教授

研究者番号：90610874

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、仕事理解の効率的・効果的な進め方を検討した。仕事を知らない児童・生徒・学生も学校の委員会や部活、サークルなどで役割を持っており、責任を果たす経験を積んでいる。そうした経験を掘り起こし意識化することで、「仕事とはどういうものか」「どういう仕事ぶりがいい仕事ぶりか」「自分はどのような仕事をやりたいか」が意識されることが示唆された。一方で過去の振り返りをして興味・関心が明確化しない学生も少なく、役割体験やロールモデルを持つ支援、勇気づけも必要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：In this research, the way of effective job understanding was considered. The child and the student who don't know work also have the experience which has the role and fulfils its responsibility at school, for example club activities and so on. By digging experience up and making it more conscious, the students can consious "what is work?" or "what kind of work way is good work way?" "what kind of work would I like to do?". On the other hand even if looking in the past was done, some student cannot clarify his/her interest, so we should support his/her role experience, having roll models.

研究分野：キャリア教育、キャリア・カウンセリング

キーワード：キャリア教育 時間的展望 社会構成主義 ナラティブ

1. 研究開始当初の背景

本邦においては1990年代になってから特に初等教育を中心にキャリア教育が発展・継承されてきたが、高校・大学におけるキャリア教育はそれに遅れてスタートしたという事情がある。そうした中で、現段階では全般的には「一貫したキャリア教育」が形成されつつあるが、小中高大さらには企業それぞれにおける「仕事理解」(企業理解あるいは社会理解)の理解が少しずつ異なる印象が持たれていた。また、本邦の「仕事理解」支援については、特に「個々の仕事内容の紹介・理解」「職業適性の理解」に偏っているという課題があった。

2. 研究の目的

本研究ではこれまで本邦のキャリア教育ではあまり手が付けられていなかった「仕事理解」の内容・方法について、当初段階では小中高大・企業にわたって検討することを目的とした。従来の本邦の「仕事理解」は「個々の仕事内容の紹介・理解」「職業適性の理解」に偏っているが、アメリカでは「働くことの価値・必要性の明確化」「短期・長期のキャリア目標の明確化」など具体的・明確な指標が用いられており、本邦でも内容の具体化・明確化を図る必要があったからである。そこで本研究では、本邦で必要な「仕事理解」の内容・方法について具体化・明確化することを目的とした。

研究の後半では、調査途中で欧米では社会構成主義(ナラティブ)アプローチが盛んに用いられていることを把握し、小中高大さらには成人にも普遍的に用いることのできるこの社会構成主義を用いたキャリア教育、キャリア・カウンセリングの効果や課題について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

各種文献調査と並行して、中学生・高校生・大学生への質問紙調査、小学校・中学校・高校・大学教員への質問紙調査等を行った。

また研究後半では、研究途中で欧米では社会構成主義(ナラティブ)アプローチが盛んに用いられていることを把握し、この社会構成主義を用いたキャリア教育内容やキャリア・カウンセリング技法を取り上げ、それら技法の効果と課題を検証した。

4. 研究成果

本研究では、小中高大を通じての「仕事理解」の効率的・効果的な進め方を検討してきたが、仕事を知らない児童・生徒・学生であっても、学校での委員会や部活、サークル、学校生活や家庭生活などでは役割・分担を持っており、その中で自分の責任を果たすという経験を積んできている。即ち「仕事」理解の前駆体ともなり得る「役割体験」「責任感」の理解の基礎である。

社会構成主義キャリア・カウンセリングを

踏まえて、そうした経験(役割体験や責任感)を掘り起こし意識化することで、「仕事とはどういうものか」「どういう仕事ぶりがいい仕事ぶりか」「自分はどういう仕事をやりたいか・やるべきか」ということが意識しやすくなることが示唆された。その際、実際の過去の経験の掘り起こしと並行して、社会構成主義キャリア・カウンセリングで用いられる質的キャリア・アセスメントを用いることで、より効果的・効率的に仕事理解が進むことが示唆された。一方で、過去の振り返りをして興味・関心が明確化せず自信が持てない学生も少なくなく、役割体験の支援やロールモデルを持つ支援、学生への勇気づけも必要であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9件)

渡部昌平 社会構成主義キャリア・カウンセリングを参考としたキャリア教育教材の開発と評価、リメディアル研究、査読あり、10(2)、2016、86-92

渡部昌平 社会構成主義キャリア・カウンセリング技法を用いた学生に対するメール相談、産業カウンセリング研究、査読あり、17(1)、2016、45-54

渡部昌平 社会構成主義からライフ・キャリア適応を考える - 社会構成主義キャリア・カウンセリング各派からの示唆 -、秋田県立大学総合科学研究彙報、査読なし、17、2016、19-24

https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=573&item_no=1&page_id=13&block_id=21

小池孝範 地域社会における寺院の役割 - 新たな公共性の創造にむけて -、宗学研究紀要、査読あり、28/29 合併号、2016、183-199

小池孝範 道德教育における「畏敬の念」の位置づけと意義について、日本仏教教育研究、査読あり、24、2016、印刷中

渡部昌平・渡部諭・小池孝範 キャリア形成における自己理解・仕事理解・啓発的経験の構造および啓発的経験の理解内容による効果の違いに関する研究、教育カウンセリング研究、査読あり、6(1)、2015、35-40

渡部昌平・渡部諭・小池孝範 キャリア教育の効果測定のための自己理解尺度の作

成について、秋田県立大学総合科学研究彙報、査読なし、16、2015、43 - 50
https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=519&item_no=1&page_id=13&block_id=21

小池孝範 二つの「知」と「学び」 - 近代以前の視座から現代へ -、プロテウス、査読なし、16、2014、79 - 96

小池孝範 学校教育に求められる「知」 - 「学習指導要領」における「知」の変遷を手がかりに -、秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学、査読なし、70、2015、69 - 79

[学会発表](計 15 件)

渡部昌平 社会構成主義キャリア・カウンセリングの効果と課題～時間展望の変化にみる事例検討、東北心理学会第 69 回大会、2015 年 6 月 6 日(於:宮城県仙台市(東北文化学園大学))

渡部昌平 ライフキャリアテーマの視点から自己PRを「引き出す」～大学生に対する社会構成主義キャリア・カウンセリング事例の検討、日本産業カウンセリング学会第 20 回大会、2015 年 9 月 6 日(於:東京都世田谷区(日本体育大学世田谷キャンパス))

Shohei WATANABE Which qualitative assessment is used for which client? -Study on objection of qualitative career assessment、IAEGV、2015 年 9 月 19 日(於:茨城県つくば市(つくば国際会議場))

Shohei WATANABE, Masumi KAGAYA Can Hard-Working Students of the Past be Role Models for Students of today?、IAEGV、2015 年 9 月 21 日(於:茨城県つくば市(つくば国際会議場))

渡部昌平 積極性、目標指向性を高めるキャリア教育実践～社会構成主義を用いた、経験の掘り起こし・新規提供、日本教育カウンセリング学会第 13 回研究発表大会、2015 年 11 月 22 日(於:東京都新宿区(早稲田大学))

小池孝範 道德教育における「生命や自然、崇高なものとの関わり」について、日本仏教教育学会、2015 年 11 月 14 日(於:島根県松江市(中村元記念館))

渡部昌平・渡部諭・小池孝範 高校生大学生のキャリア意識の自己評価と教員評価

の差の検討～キャリア教育とキャリア意識、キャリア意識と態度・行動は一致するのか、日本心理学会第 78 回大会、2014 年 9 月 10 日(於:京都府京都市(同志社大学))
http://www.myschedule.jp/jpa2014/detail.php?sess_id=306

渡部昌平 大学生の自己理解と仕事理解 - 自己理解と仕事理解の発達に関する探索的研究、日本教育カウンセリング学会第 12 回研究発表大会、2014 年 11 月 1 日(於:鹿児島県鹿児島市(かごしま県民交流センター))

渡部昌平・小池孝範・渡部諭 小中学校におけるキャリア教育の課題について - 児童生徒の自己理解・仕事理解について考える -、日本教育カウンセリング学会第 12 回研究発表大会、2014 年 11 月 1 日(於:鹿児島県鹿児島市(かごしま県民交流センター))

渡部昌平 質的キャリア・アセスメントについて考える - 「標準化されていないテスト」の効用と適用可能性 -、日本キャリア教育学会第 36 回研究大会、2014 年 11 月 23 日(於:沖縄県那覇市(琉球大学))

渡部昌平 中学校キャリア教育の課題に関する探索的研究 - 生徒と教員の評価のちがいをみる課題 -、日本発達心理学会第 26 回大会、2015 年 3 月 21 日(於:東京都文京区(東京大学))

小池孝範 自覚としての学び、第 23 回日本仏教教育学会学術大会、2014 年 10 月 18 日(於:東京都世田谷区(駒澤大学駒澤キャンパス))

渡部昌平・渡部諭・小池孝範 「仕事理解」を捉え直す、日本発達心理学会第 25 回大会、2014 年 3 月 22 日(於:京都府京都市(京都大学))

小池孝範 禅の労働観と人間形成、日本仏教教育学会第 22 回学術大会、2013 年 12 月 7 日(於:東京都江東区(武蔵野大学有明キャンパス))

小池孝範 仏教教育学の今日的課題(指定討論者)、日本仏教教育学会第 1 回仏教教育学研究会、2014 年 3 月 24 日(於:東京都文教区(東京大学仏教青年会館))

[図書](計 2 件)

渡部昌平(編著)、福村出版、社会構成主義キャリア・カウンセリングの理論と実践、2015、252

小池孝範ら、ナカニシヤ出版、教育的思考の歩み 第 13 章「近代教育思想の成立と宗教の世俗化 - 宗教と教育学」

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡部 昌平 (WATANABE, Shohei)
秋田県立大学総合科学教育研究センター
准教授
研究者番号：90610874

(2) 研究分担者

渡部 諭 (WATANABE, Satoshi)
秋田県立大学総合科学教育研究センター
教授
研究者番号：40240486

小池 孝範 (KOIKE, Takanori)
秋田大学教育文化学部 准教授
研究者番号：80550889

(3) 連携研究者：なし